



天平のひろば

2024 年 4 月発行

90 号

☎/Fax 0742-34-7713

NPO法人平城宮跡サポートネットワーク（NPO平城宮跡）

〒630-8577 奈良市二条町 2-9-1 奈良文化財研究所内

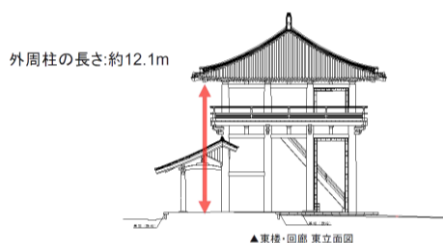
e-mail :npohaijyou@yahoo.co.jp

http://www.heijyonet.nara.jp

第一次大極殿院「東楼」の復原整備 現場研修会を実施



東楼および築地回廊(今回工事)令和7年度完成目指し
整備・大極殿院模型(平城宮跡歴史公園平城分室提供)



外周柱の長さ:約12.1m

☞平城宮跡
歴史公園平
城分室提供

▲東楼・回廊 東立面図



☞(株)竹中工務店提供
古代技法に倣う木口金
物鑄込

NPO 平城宮跡は、飛鳥歴史公園事務所平城分室、平城宮跡管理センター、(株)竹中工務店の協力で3月29日ガイド研修を実施しました。雨上がりの中62名は3班に分かれ、木材加工・原寸場、東楼素屋根3階まで上がり、2階の床は、約160畳敷で、外周柱(12.1m)の長さは、清水寺本堂の舞台懸造りの東柱

と同じなど、復原整備の普段聞けない質問やお話などを聞くことができました。

午後は水もはけ、モックアップの現場研修を実施。



☞(株)竹中工務店提供
臨尾原形



☞(株)竹中工務店提
二の隅軒丸瓦生形

＜飛鳥歴史公園事務所平城分室 田中元洋 協力＞



上棟式を終えたばかりの東楼3階で説明

東楼および築地回廊(今回工事)は令和7年度完成を目指し復原整備している旨説明がありました。

参加者からは、素屋根に上がり質問にも分かり易く応えていただき、良かったとの感想がありました。

(編集部)

あちこち見て歩き ⑧ 芭蕉の大和路 (一)

芭蕉が生まれたのは、大和と山並み一つ挟んだ伊賀上野。29 才で故郷を離れて江戸へ出立した後は、生活苦の連続で大和は遠い地となっていた。

しかし芭蕉の大和への思いは、まだ宗房と名乗っていた時から芽生えていて、

うち山や外様しらずの花盛

と江戸時代にはまだ大伽藍が存在していた内山永久寺を詠んでいる。「内山」と「外様」の内と外をかけ、永久寺の桜は外の者にはわからないだろうが見事なものだと、貞門風の俳句で大和の桜を賛美している。



江戸での約 10 年間職業を転々とし、俳句の試行錯誤を重ねた後、40 才にして長旅に出ることを

決意。それは俳諧の道を究めるための旅に他ならなかった。

貞享元年（1684）旧暦八月、41 才で『野ざらし紀行』の旅へ出立。この年は公慶上人が大仏殿再興に着手した年でもある。芭蕉はこの旅に出てから他界するまでの 10 年間、江戸滞在と旅の暮らしをほぼ半分ずつ過した。大和路への旅は、はっきりとわかっているのは 6 回である。これから 6 回目の最後の旅に至るまでの旅程と句を紹介していきたい。

貞享元年 9 月 8 日に伊賀に帰郷し、年内に第 1 回目の大和の旅に赴いた。門人千里（粕谷甚四郎）の故郷竹内村に数日とどまって、土地の庄屋油屋喜衛門の厚遇を受け、

綿弓や琵琶に慰む竹の奥

と吟じた。これは旅宿の世話になっている千里に対する謝意であり、また喜衛門に対する挨拶吟でもあった。芭蕉は静かな村で心豊かに暮らしている大和の人に接してくつろいでいるのである。

当麻寺を訪ねた後、吉野に行って敬慕する西行の草庵跡を訪ね、西行の作と伝わる

とくとくと落つる岩間の苔清水

くみほすほどもなきすまひかな

をふまえて、

露とくとくと試みに浮世すすがばや
と切実な西行に対する思いを吐露した。

山を下り、失意の内に吉野で崩御した後醍醐帝の御廟を拝して、

御廟年経て忍ぶは何をしのぶ草

と帝の悲劇的な生涯を追懐している。芭蕉の歴史への関心は政治的事件よりも、その時代の社会を背景として生きた人物に向けられていたのである。

（河野良子）

平城宮跡木簡ガイドツアー

NP0 平城宮跡は 3 月 23 日、雨の中 19 名の参加で平城宮跡木簡ガイドツアーを開催。平城宮跡資料館で垣中健志研究員（奈文研）から木簡（もっかん）の概要説明後、第一号木簡の「大膳職推定地」をはじめ、「内膳司」、「内裏北外郭官衙」、「内裏東大溝」、「酒酒司跡」と出土地を巡りながら、木簡の幅の広い質問に的確に応えながらツアーを実施しました。

木簡が初めて発掘された 1961（昭 36）年 1 月 24 日を「木簡の日」と提唱、これからも隔年毎に木簡ガイドツアーを行います。（文化・ガイド部会）



遺構展示館前の内裏東大溝



遺構展示館駐車場の造酒司跡

通常総会/記念講演会のご案内

5 月 25 日（土）＜平城宮跡資料館講堂＞

13 時 00 分～ 第 23 回通常総会

14 時 40 分～ 第 50 回平城宮跡歴史講座

寺崎保広「律令を読む『律令』という史料」

16 時 45 分～ 交流会

好評 平城京 歴史講座

藤永泰雄さん（NPO 平城宮跡会員）が、1月13日 94名を前に「天武系・天智系天皇の即位の正当性」と題し講演。



皇位の正当性は「不改常典」によるとの認識が、天智・天武時代には無く、天武は壬申の乱後、後継から天智の皇子を排除してはいない。天武死後、持統が称制で統治、草壁死去後 690

年即位するが、孫の文武を「天孫」になぞらえ自己の即位の正当性を主張。その後文武が即位、藤原氏が台頭し宮子が入内、聖武を産んでいる。文武没後、元明は初めて「不改常典」を唱え文武の懇願で即位したと主張。更に中継ぎの元正が、即位。724年聖武が即位、後継男子はなく孝謙が皇位を継ぐ。天武の孫世代は政変等で数を減らし、聖武の皇女井上内親王の子（他部親王）に継がせるべく、井上の夫で天智の孫の光仁天皇が即位した。奈良時代には、天武系天智系の意識はなく、持統天皇が文武への皇位継承に執念を燃やし、元明→元正→孝謙と、外戚となった藤原氏は入内した宮子→光明子と、女性が皇統をつなぐ役割を担った。（編集部）

岩井共二さん（奈良国立博物館美術室長）が2月10日 96名を前に「着衣からみた白鳳仏の謎」と題し講演。



「白村江の戦い」によって唐との交流が途切れ、初唐様式や百済などの朝鮮半島の様式も取り入れられた仏像が、白鳳仏である。代表例に薬師寺東院堂の

聖観音立像や伝橘夫人念持仏の阿弥陀三尊像などがある。しかし、薬師寺の日光・月光菩薩立像などは白鳳仏と確定できないのではないかという論争が起こっている。そこでその着衣や様式に着目してみる。この時期の菩薩像の特殊な着衣形式として、条帛じょうはくを着けない事と天衣てんいを前面で交差させないという特徴があり、裾すその着方にも一定の様式があるようだ。だが確定を難しくしているのはその様式の多様性で、先の日光・月光菩薩立像の

裾の着方を見ると裾の前面中央に長く襷を垂らした形式になっていて他の仏像とは違っている。また、鑄造技術の変化もあり白鳳期はほぼ純銅で重かった仏像が天平期になると軽くなる。白鳳仏とされる蟹満寺の釈迦如来坐像は軽くなっていて確定は難しいという。このように様々な様式の影響を受けながらも一元的には発展せずに、左右非対称の造形や胸が張って腰が細い体型など日本独自の様式で過渡的時代であるようだ。（編集部）

北村憲彦さん（飛鳥歴史公園歴史専門員）が、3月9日 109名を前に「五畿七道と陰陽五行」と題し講演。



五畿とは大和・山背・摂津・河内に和泉が加わった五か国。

「畿」とは都、天子さまの住まい。「七道」は、東海道・東山道・北陸道・山陽道・山陰道・南海道・西海道の七道で、置か

ない国は、備前、備中、備後など「都」に近い順番で記される。陰陽五行は、私たちの生活に密接に関わりを持つ。陰陽とは、月と太陽を意味し、木・火・土・金・水の五行が加わり、暦でいう曜日を表わす。甲（キノエ）乙（キノト）など十干と十二支、更に方向が加わることにより、暦や四柱推命などに用いられる。

玄武・青龍・朱雀・白虎と言われる四神は方角だけでなく、色や四季、地勢に関わり、人の一生にも例えられた。特別史跡キトラ古墳の写真では四神の壁画写真や天文図を確認した。天平は神亀の後、天平感宝の前で『続日本紀』にある「天王貴平知百年」から天平時代が始まったことは興味深かった。（編集部）

次回の平城京 歴史講座（いざない館）

- ・4月13日：柴田将幹（田原本町教育委員会事務局文化財保存課係長）
「弥生の環濠集落遺跡 唐古・鍵遺跡」
- ・5月11日：廣岡孝信（橿原考古学研究所 主任研究員）
「太安萬侶の邸宅と奈良時代のヒツジ」
- ・6月8日：江浦 洋（元興寺文化財研究所技師）「平城京北辺坊をめぐる新発見」



1996 年山形県山形市生まれ。2019 年京都女子大学卒、2021 年 3 月東京工業大学環境・社会理工学院建築学系修士課程修了、2021 年同大学院博士後期課程に進学、同大学院在学中の 2022 年 4 月奈文研に採用され現在に至っています。

高野さんは、文化財建造物の保存や修理の理念、戦後昭和期の修理を中心に研究。魅力的な文化財の保存や活用の手法について関心があります。高野山の歴史的建造物調査では、建造物のほか棟札についても研究し、建物の完了や修理の年月日、施主の名前などの記録だけでなく、棟札の形状や願文の内容や記載方法にも注目しました。

2023 年度の法華寺旧境内・海龍王寺旧境内の発掘調査（現在の法華寺の北、海龍王寺の北西にあたる場所）では、奈良時代前半に不比等邸宅の敷地内だった可能性も想定され、変遷の解明が期待されました。発掘調査では掘立柱建物や古代の人が不用品を捨てた大土坑を検出でき、古代の解明に携わることができてうれしかったとのこと。発掘調査はまだまだ、経験不足と謙遜されていました。

昭和 50 年代におこなわれた桂離宮御殿整備工事では、合成樹脂を使った修理の方法と手法に注視。戦後の文化財修理における新技術の導入について、目を輝かせていました。

学生時代は、特に趣味ということもなく、古い町並みやお寺を見て歩くのが好きで、スポーツは陸上で走った程度かなと明るく話していただきました。

また、NPO 平城宮跡の活動など機会が合えば皆さまと一緒に活動をしたい、今のボランティアの皆さまには引き続き、明るく楽しく、平城宮跡の魅力を伝えてほしいと言われました。

平城宮跡をどのように保存し活用していくのか、専門家の若返りは、将来の文化財保護に大いに期待できます。さらに平城宮跡の復原整備が着実に進展すると確信いたしました。（編集部）

平城宮跡を“楽しむ”人たち

平城宮跡をきれいにしたいと 第22回クリーン大会を
4月20日(土)9時～10時30分開催します。

私たちの活動の舞台の平城宮跡を

私たちの手できれいにしましょう！

集合：朱雀門ひろば(受付開始 8 時 30 分)

ご友人、ご家族をお誘いのうえ春爛漫の宮跡を

自ら案内しながら活動しましょう！

ごみを捨てない！ 捨てさせない！



2003 年 5 月 第 1 回クリーンフェスティバル(350 人)

(環境保全部会)

新規会員の紹介/募集

＊ ＊ 新規会員の紹介 ＊ ＊ （4 月 1 日現在）。

滋野善夫さん、辻本良信さん、鳥居高志さんが入会しました。

＊ ＊ 新規会員の募集 ＊ ＊

〈活動の支援/入会のお申し込み〉

❖ 個人が支援/活動 年会費 3000 円

❖ 法人が支援/活動 年会費 10000 円

◆ お申込みなど： ☎0742-34-7713

編集後記

いま平城宮跡は春爛漫、桜の花に続き、レンゲやタンポポ、つつじ、あやめと花の饗宴です。

開けた大空でヒバリの囀りを聞く。こんな麗らかな春の日に平城宮跡でお弁当を広げてみるのも楽しみの一つです。（萱鼠）